

音楽科 実態調査の実施にあたって

I 実施方法

1. それぞれの児童生徒の段階を、「音楽遊び」「歌唱」「器楽」「音楽づくり／創作」「身体表現」「鑑賞」「共通事項」の領域に沿って観点別に把握する。「共通事項」については、参考資料として添付している。音楽科の内容は、自ら考えて、判断し、表現等をしていく中で、知識や技能を身に付けていくことを重視し、(ア)思考力、判断力、表現力等、(イ)知識及び技能の観点から実態を把握する。
2. 音楽科の実態調査においては、各領域の単元中や単元終了後、年度末に評価する。
3. 「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」について、それぞれの段階の指導事項の調査項目にしたがい、○、△、無印を記入する。
4. ○は調査項目を達成しており、いつでも、一人でできるものにつける。△はどんな条件だとできるのかを備考欄に端的に記入する。
5. △や無印の部分について、今後、授業づくりや個別の指導計画作成の際に、指導事項の要素を反映できるよう検討する。

II 留意点

音楽科 実態調査表を使用するにあたり、以下の点に留意をする。

- 知識及び技能の調査項目は、「歌唱」「器楽」「音楽づくり／創作」「身体表現」「鑑賞」の順に作成している。
- 「音楽遊び」については、「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「身体表現」の小学部1段階に関連する指導事項ごとに分けて表記している。
- 現状、学習指導要領解説等から転記し、調査項目を作成しているため、分かりづらい部分もあるが、今後、より具体的な子どもの姿として、表すことができるように調査項目を改定していく。
- 「共通事項」に関しては、特別支援学校学習指導要領に記載がない文面も含んでいるが、小中学校の学習指導要領解説音楽科編等を参考に参考資料として作成し添付している。
- 活動例については、実態調査を基に授業や活動を行った際に、今後の参考として加筆していく。

A表現(歌唱)

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能(技能)	調査項目	判定	
中1段階	曲名や曲の雰囲気と音楽の構造との関わりを気付くこと。		元気が出る雰囲気曲や穏やかな雰囲気曲など曲の印象と速度との関係に気付くことができる。	元気が出る雰囲気曲や穏やかな雰囲気曲など曲の印象と速度との関係に気付くことができる。		
				元気が出る雰囲気曲や穏やかな雰囲気曲など曲の印象と音の大きさとの関係に気付くことができる。		
				元気が出る雰囲気曲や穏やかな雰囲気曲など曲の印象と音の重なりとの関係に気付くことができる。		
	曲名や曲の雰囲気と音楽の構造などとの関わりについて気付くこと。		曲の速度と歌詞の表す情景やイメージとの関係に気付くことができる。	曲の速度と歌詞の表す情景やイメージとの関係に気付くことができる。		
				曲の調性と歌詞の表す情景やイメージとの関係に気付くことができる。		
	発声の仕方に気を付けて歌うこと。		声の大きさをコントロールして歌うことができる。	声の大きさをコントロールして歌うことができる。		
				姿勢や口形、呼吸法などに留意して歌うことができる。		
				友達の歌声を聴いてタイミングを合わせて歌うことができる。		
	友達の歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌うこと。		友達に合図を送って歌うことができる。	友達に合図を送って歌うことができる。		
				伴奏を聴いて遠さや歌いだしなどを合わせて歌うことができる。		
中2段階	曲名や曲想と音楽の構造との関わりを理解すること。		その音楽に固有の雰囲気や表情、味わいという「曲想」に気付くことができる。	その音楽に固有の雰囲気や表情、味わいという「曲想」に気付くことができる。		
				曲想と音楽を形づくっている要素や音楽を特徴付けている要素、音楽の仕組みとの関わりが分かる。		
	曲想と歌詞の表す情景やイメージとの関わりを理解すること。		歌詞の表す情景やイメージと曲想の関わりを理解することができる。	歌詞の表す情景やイメージと曲想の関わりを理解することができる。		
	曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱姿勢、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。	歌詞やリズム、音の高さを意識して歌うこと。		歌詞を覚えて歌うことができる。	歌詞を覚えて歌うことができる。	
					歌詞の表す情景や曲想についてイメージをもち、歌詞を意図して歌うことができる。	
					歌詞の表す情景や曲想についてイメージをもち、リズムを意識して発声することができる。	
					歌詞の表す情景や曲想についてイメージをもち、音の高低を意識して発声することができる。	
					楽譜を見て、音の高さの変化を意識して歌うことができる。	
	呼吸及び発声の仕方に気を付けて歌うこと。		正しい発音やよりきれいに聴こえる発音を意識して歌うことができる。	正しい発音やよりきれいに聴こえる発音を意識して歌うことができる。		
歌いやすい姿勢やきれいに見える口形、きれいに聴こえる呼吸に留意して歌うことができる。						
独唱と、斉唱及び簡単な輪唱などをする。		自分の思いや意図に合わせて歌うことができる。	自分の思いや意図に合わせて歌うことができる。			
			伴奏や友達の歌声を聴いて、思いや意図に合った歌声で歌うことができる。			
			相手に合わせて声の大きさや出し方をコントロールしながら輪唱することができる。			

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
中1段階	音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、音や音楽を味わいながら歌うことができるようにする。	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気や音楽に合いそうな表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。		元気が出る雰囲気曲は大きな声で元気がよく歌っている。	
				ゆっくり穏やかな雰囲気曲は低い声でそっと歌っている。	
				曲の雰囲気や曲の印象に合うように歌い方を工夫して表現している。	

活動例
<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞を学んだり、節拍を聴いたり、友達と一緒に歌ったりする活動を通して、友達と声に合わせてよりよい表現をする。 ○曲を聴いたり、歌詞を学んだりする中で、その曲から受けた印象や「こんなふうに表現しよう」という思いや意図を基に、自分の発声の仕方など表現の仕方に気付くようにする。 ○元気が出る雰囲気曲や穏やかな雰囲気曲など曲の印象と音の大きさ、音の重なりなどとの関係について気付くことができる。

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
中2段階	音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、歌唱表現に対する思いや意図をもつこと。		速度や強弱、リズムなど曲の特徴となる要素を根拠として、要素の働きが生み出す良さや面白さなど感じ取っている。	
				曲の要素や特徴を根拠として、歌唱表現を工夫している。	

活動例
<ul style="list-style-type: none"> ・速度や強弱、リズムなどその曲を特徴付けている要素の働きが生み出すよさや面白さなど、自分が感じ取ったことを生かせるような表現について考えるということ。

A表現(歌唱)

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能(技能)	調査項目	判定	
高1段階	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。		曲の雰囲気や表情、味わいと音楽を形づくる要素や要素同士の関わり方、全体の構造の関係について理解することができる。			
				我が国の伝統的な歌唱や諸外国の歌唱の曲種に応じた声の音色や響きを理解することができる。		
					声の音色や響きと発声との関わりについて理解すること。	声の音色の響きの違いが発声の仕方の違いによって生じるものであることを理解することができる。
	曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。		範唱を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして歌うこと。	音楽を形づくっている要素や表現の仕方などについて課題意識をもって範唱を聴くことができる。		
				範唱を真似て、自分の表現が豊かになるように聴唱することができる。		
				ハ長調とイ短調の楽譜を比較し、調号が同じであることに気付くことができる。		
				ハ長調とイ短調の曲を比較し、旋律の感じが異なることに気付くことができる。		
				楽譜を見て、休符、記号、音楽用語をとらえることができる。		
	呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うこと。			母音、子音、濁音、鼻濁音などの発音や語感に気を付けて歌うことができる。		
				力まずに曲想に合った自然な歌い方で声を響かせることができる。		
互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。			友達の歌声や伴奏を聴きながら歌うことができる。			
			副次的な旋律(音の高さやリズムが違う旋律)を聴きながら歌うことができる。			
			自分の歌声と友達の歌声を調和するように歌うことができる。			

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
高1段階	音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを自分なりに見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。	曲に対するイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりしている。		
			音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤して、表したい歌唱表現について考えている。		
			どのように歌唱表現するかについて思いや意図を持っている。		

活動例
○ハ長調やイ短調の楽譜を見ながら歌う活動 ○友達の歌声を聴きながら歌う活動
○曲想、音楽の構造、歌詞の内容を一体的に学習する活動。

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能(技能)	調査項目	判定	
高2段階	曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。		曲の雰囲気や表情、味わいと音楽の構造や歌詞の内容の関わりについて、根拠とともに理解することができる。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解することができる。		
				曲想と歌詞の内容とのかわりについて理解することができる。		
				音楽固有の雰囲気や表情、味わいと音楽の構造や歌詞の内容の関わりについて、根拠とともに理解することができる。		
	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。		声の音色や響き及び言葉の特性と発声との関わりについて理解すること。	声の音色や響きが生み出す雰囲気を感じ、発声との関わりを理解する。		
				言葉の特性が生み出す特質の雰囲気を感じ、発声との関わりを理解することができる。		
	創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などを身に付けること。			思いや意図を表せるような発声、言葉の発音、身体の使い方などで歌うことができる。		
				上記を試しながら、曲の中で工夫することができる。		
				各声部の関わり合いによって生まれる総体的な響きを聴きながら全体の響きに合うように歌うことができる。		
	創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら、他者と合わせて歌うこと。			各パートや伴奏、民謡における掛け声、囃子詞などを聴きながら、全体の響きに合うように歌うことができる。		
				自分と同じ声部の他者の声や他の声部の声との重なりやつながりを聴きながら工夫して歌うことができる。		

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
高2段階	音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。	曲に対するイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりしている。		
			音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤して、表したい歌唱表現について考えている。		
			どのように歌唱表現するかについて思いや意図を持っている。		

活動例
○曲想、音楽の構造、歌詞の内容を一体的に学習する活動。

A表現(器楽, 音楽遊びの一部)

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定
小1段階	※「音楽遊び」の中で扱う	表現する音や音楽に気付くこと。	音や音楽を聴いてそちらを向くことができる。	音や音楽を聴いてそちらを向くことができる。	
				手足を使って楽器を鳴らすことができる。	
				音や音楽を感じて楽器の音を出すこと。	
				ばちを使って音を出すことができる。	

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定	
小2段階	曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	拍や曲の特徴的なリズムに気付くこと。	特徴的なリズムを体で感じながら(揺れるなど)楽器の音を出すことができる。	拍や曲の特徴的なリズムに気付くこと。		
				小節の初めの拍を意識して拍をとることができる。		
				楽器の音色の違いに気付くこと。	楽器によって音が違うことに気付くことができる。	
					鳴らし方、たたき方によって音が変わることに気付くことができる。	
				範奏を聴き、模倣して演奏すること。	教師の演奏する様子を見ること聴くことを同時に行い、音の出し方を模倣して演奏することができる。	
				身近な打楽器を演奏すること。	身近な打楽器を使って、楽器の持ち方や音の出し方が分かり、演奏することができる。	
教師や友達と一緒に演奏すること。	教師や友達の演奏を聴いて、それに合わせて一緒に演奏することができる。					
	教師の合図を手掛かりに、それに合わせて一緒に演奏することができる。					

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定
小3段階	曲名や曲想と音楽づくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	リズム、速度や強弱の違いに気付くこと。	音の強弱の違いに気付くことができる。	音の強弱の違いに気付くことができる。	
				速度の違いに気付くことができる。	
				タンタン、タタタなどのリズムの違いに気付くことができる。	
		演奏の仕方による楽器の音色の違いに気付くこと。	そっと音を出したときと強く音を出した時の音色の違いに気付くことができる。		
			簡単な楽譜を用いて、見ることと演奏することを同時に行うことができる。		
			教師の演奏を模倣したり合図に合わせてたりして、さぐり弾きや部分奏で、簡単な合奏をすることができる。		
		身近な打楽器や旋律楽器を使って演奏すること。	指揮や合図を見て、タンタンタンタンやタンウンタンウンなどを意識して演奏することができる。		
			打楽器、鍵盤楽器、旋律楽器(リコーダーなど)を使って曲の一部を演奏することができる。		
			旋律楽器を打楽器のように演奏して、和声(コード)の一部を奏でることができる。		
		教師や友達の楽器の音を聴いて演奏すること。	楽器の固有の音色を意識した「打ち方」や「弾き方」を身に付けて演奏することができる。		
自分の音だけではなく友達の音も聴きながら演奏することができる。					

※「簡単な楽譜」とは、絵譜、「どみどみ」のように文字で音符、リズム、旋律、和音を描いた楽譜のこと

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
小1段階	※「音楽遊び」の中で扱う	音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。	音や音楽を聴いて楽器を鳴らしている。	音や音楽を聴いて楽器を鳴らしている。	
				教師と一緒に楽器を鳴らしている。	
				音や音楽の変化を聴いて楽器の鳴らし方を変えている。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
小2段階	音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身近な打楽器などに親しみ音を出そうとする思いをもつこと。	自分で意図的に楽器をたたいたり振ったりしている。	自分で意図的に楽器をたたいたり振ったりしている。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
小3段階	音楽表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現に対する思いをもつこと	リズム、速度や強弱などを意識して演奏している。	リズム、速度や強弱などを意識して演奏している。	
				教師や友達と音に合わせてどのように演奏したいかという思いをもって演奏している。	

活動例
<ul style="list-style-type: none"> ○楽器 ・打楽器を中心に扱う活動 ○活動 ・手足を使って鳴らす ・触れる、吹く、揺らすなどの動き ○曲 ・日常の中で聴きなじみのある曲やテレビで流れる曲など

活動例
<ul style="list-style-type: none"> ○楽器 ・タンバリン、ウッドブロック、ギロなどの両手を使う楽器 ・音階や和音を鳴らすことができる木琴、キーボードなど ○曲 「おきなたいこ」「とけいのうた」 ・大太鼓、小太鼓で音の大小を知る。 ・タンバリン、カスタネットなどを使用した応用も可能。 「やまのおんがくか」「ぶんぶんぶん」 ・打楽器、吹いて音が出る楽器など音の出し方を学ぶ。 ・好きな楽器を選び、自分の好きな鳴らし方で自由に鳴らす。 ・自分が発表したり、友達の演奏を聴いたり簡単な分伴奏をする。 「子犬のピンゴ」「しろくまのジェンガ」 ・手拍子などでリズム打ち。B I N G O ・タンバリンなどを使用した応用も可能。 ・いくつかの簡単なリズムを知る。 「たぬきのたいこ」「うみ」「かっこう」「いるかはざんばらこ」 ・リズム打ちの導入。ドンチャチャのように擬音語でリズムを唱えて感覚的に三拍子を感じ取る。 「おもちゃのちゃちゃちゃ」「メリーさんのひつじ」「アイアイ」 ・歌詞に合わせて歌ったり楽器を鳴らしたりする。 「虫の声」 ・自分で楽器を作る。 ・身近な生活道具で音の出る物を探す。 ・分伴奏をする。

活動例
<ul style="list-style-type: none"> ○楽器 ・鍵盤楽器やリコーダーなどの旋律楽器、単音グロッケン、ハンドベルなど ・身近な打楽器や旋律楽器、簡単な楽譜を見て、リズム演奏、初歩的な合奏をする。 ○曲 「ドレミのうた」「きらきらぼし」 ・音階を知る。 ・ミニキーボードや、音積木、ベルハーモニなど分伴奏をする。 ・鍵盤ハーモニカの使い方を知る。 ・自分の番で音を出すような簡単な合奏をする。 「やまのおんがくか」 ・ヴァイオリンや、フルートなど実際の楽器の音に触れる。 ・単独奏、分伴奏など演奏形態の工夫。 「ゆかいなまきば」「とんくるりんぱんくるりん」 ・打楽器を中心に、歌詞を手掛かりにした分伴奏。 「茶色のこびん」「こぐまの2月」 ・リコーダー、鍵盤ハーモニカによる演奏。 ・タンギング、シンコペーション、弾むような曲想。 「大きな古時計」「ゆうやけこやけ」「きよこのよる」 ・音が伸びる楽器(トーンチャイムや鉄琴など)を使用し、一音の響きを味わう。 ・単音と和音の響きの違いを知る。 「ミッキーマウスマーチ」「ちいさなせかい」 「あかはなのトナカイ」 ・合奏、グループ練習、ピアノ伴奏に合わせて演奏。

A表現(器楽)

段階	知識及び技能			
	段階の目標	指導事項	調査項目	
中1段階	曲の雰囲気と音楽の構造との関わりについて理解すること。	曲調などの変化について、「[タッカ]のリズムが多くなったから弾む感じに変わった」など、気付くことができる。		
	楽器の音色と全体の響きとの関わりについて理解すること。	自分一人の演奏だけでなく、友達と合わせたときの音の響きの違いといったことに気付くことができる。		
	曲名や曲の雰囲気と音楽の構造などとの関わりについて理解すること。	筋表を模倣したり合図に合わせてたりして、部分奏で、簡単な合奏をすることができる。		
	多様な楽器の音色と全体の響きとの関わりについて理解すること。	力をコントロールして強弱やアクセントを意識して演奏することができる。		
	音色や響きに気を付けて、打楽器や弦楽器を使って演奏すること。	全体の響きを感じながら演奏することができる。		
友達との楽器の音や伴奏を聴いて、音に合わせて演奏すること。	打楽器や音の高さが変わる楽器を利用して、和音としての響きや旋律を奏でることができる。			
友達との楽器の音や伴奏を聴いて、音に合わせて演奏すること。	同じパートまたは別パートの友達との音や伴奏を聴いて、タイミングを合わせて演奏することができる。			
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
中2段階	曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。	その音楽に固有の雰囲気や表情、味わいという「曲想」に気付くことができる。		
	曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解すること。	曲想と音楽を形づけている要素や音楽を特徴付けている要素、音楽の仕組みとの関わりが分かる。		
	多様な楽器の音色と全体の響きとの関わりについて理解すること。	楽器の組み合わせなどを工夫することで、音色や響きが変わるといったことを理解することができる。		
	和楽器や諸外国の楽器などを含め、様々な楽器を用いて演奏することができる。	和楽器や諸外国の楽器などを含め、様々な楽器を用いて演奏することができる。		
	筋表や楽譜を見てリズムや速度、音などを意識して演奏すること。	楽譜を見て演奏する中で、音色などを意識して演奏することができる。		
打楽器や弦楽器の基本的な扱いを認識して、音色や響きに気を付けて演奏すること。	楽器の扱い方による音色の違いに気を付けて演奏することができる。			
打楽器や弦楽器の基本的な扱いを認識して、音色や響きに気を付けて演奏すること。	楽器の基本的な演奏の仕方を意識して演奏することができる。			
友達との楽器の音や伴奏を聴いて、リズムや速度を合わせて演奏すること。	友達の演奏を聴きながら、自分の演奏のリズムや速度をそろえようと意識して演奏することができる。			

段階	思考力、判断力、表現力等			
	段階の目標	指導事項	調査項目	
中1段階	音楽表現を考えた表現や意図をもち、曲の雰囲気や演奏の仕方を工夫して演奏すること。	音楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、音楽表現に対する思いや意図をもつこと	元気の雰囲気のある曲はその雰囲気に合うよう表現を工夫して演奏している。	
	音楽表現を考えた表現や意図をもち、曲の雰囲気や演奏の仕方を工夫して演奏すること。	音楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、音楽表現に対する思いや意図をもつこと	ゆったり穏やかな雰囲気のある曲はやさしく演奏している。	
	音楽表現を考えた表現や意図をもち、曲の雰囲気や演奏の仕方を工夫して演奏すること。	音楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、音楽表現に対する思いや意図をもつこと	曲の雰囲気に合うように演奏の仕方を工夫している。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
中2段階	音楽表現を考えた表現や意図をもち、曲の雰囲気や演奏の仕方を工夫して演奏すること。	音楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、音楽表現に対する思いや意図をもつこと	曲のリズムや速度、その曲のもつ雰囲気などを感している。	
	音楽表現を考えた表現や意図をもち、曲の雰囲気や演奏の仕方を工夫して演奏すること。	音楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、音楽表現に対する思いや意図をもつこと	曲のリズムや速度、その曲のもつ雰囲気を生かせるような演奏の仕方を考えている。	
	音楽表現を考えた表現や意図をもち、曲の雰囲気や演奏の仕方を工夫して演奏すること。	音楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の雰囲気に合いそうな表現を工夫し、音楽表現に対する思いや意図をもつこと		

活動例
<ul style="list-style-type: none"> ○楽器 ・和音の響き、旋律を奏でる楽しさを重視。 ・卓上木琴、卓上鉄琴、卓上ベル、笛(リード)で音や高さが変わるなど) ・鍵盤楽器 ○曲 ・「音楽☆☆☆」を参照 ○曲「ラバースコンテルト」 ・打楽器を使って、生地の裏側に貼ったリズム打ちを行う。 ・トーンチャイムを使って、それぞれの役割の音のタイミングで楽器を鳴らす。 ○曲「バフ」
<ul style="list-style-type: none"> ○楽器 ・今までの楽器に加え、和楽器や諸外国の楽器 ・鍵盤楽器、和楽器、電子楽器など ○曲 ・「音楽☆☆☆☆」を参照 ○曲「ラバースコンテルト」 ・鉄筋や木等、キーボードを使って、曲の一部もしくは全部を楽譜を見て演奏する。 ○曲「バフ」 ・楽器の音色の印象や聴こえ方を基として曲の音色に合わせて楽器を使い分ける。

A表現(器楽)

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定
高1段階	曲想と音楽の構造などの関わりについて理解すること。		音楽に固有の雰囲気や表情、味わいに気付くことができる。		
				音楽を形づくっている要素そのものや要素同士の関わり方及び音楽全体がどのように成り立っているかなどに気付くことができる。	
				友達と一緒に演奏した時に、(中学部2段階までに学んだ)楽器の組合せを変えるだけでなく、音の大きさや力強さなど自分の演奏の仕方を変えることによって、その音色が変化することに気付くことができる。	
				範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること	
				音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏すること	
高2段階	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解すること。創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。	多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりについて理解すること。	木琴や鉄琴の演奏では、表したい思いや意図に合った音色になるようマレットで打つ強さを変化させることができる。		
				リコーダーの演奏では、音域や表現方法にふさわしい息の吹き込み方やタンギングの仕方に気を付けたりすることができる。	
				主旋律や副次的な旋律などの役割を理解し、強弱などを工夫して表現することができる。	
高2段階	創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら、他者と合わせて演奏すること。	各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。	主旋律や副旋律など各声部の楽器の音や伴奏を聴いて、強弱を変えて演奏することができる。		

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
高1段階	音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	音楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。	曲に対するイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりしている。		
				音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい器楽表現について考え、思いや意図をもって演奏している。	
高2段階	音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。	曲に対するイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりしている。		
				音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい器楽表現について考えている。	
				どのように器楽表現するかについて思いや意図をもっている。	

活動例
<p>○楽器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和楽器などを含める。 ・音の響きの違い。 <p>○活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小アンサンブル、クラス全体の合奏など。 <p>○木琴や鉄琴の演奏では、表したい思いや意図に合った音色になるようマレットで打つ強さに気を付けたり、リコーダーの演奏では、音域や表現方法にふさわしい息の吹き込み方やタンギングの仕方に気を付けたりするなど</p>
<p>○楽器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和楽器などを含める <p>○活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小アンサンブル、クラス全体の合奏など ・鏡などを用いてまねして演奏するなど。

A表現(身体表現, 音楽遊びの一部)

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能 調査項目	判定	
小1 段階	音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心を向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。	表現する音や音楽に気付くこと。	音や音楽が流れる中で体を揺ることができる。		
			音楽が止まったときにじっと動きを止めることができる。		
			音や音楽を感じて体を動かすこと。		
			音楽が流れる中で手足などを動かすことができる。		
小2 段階	拍や曲の特徴的なリズムについて気付くこと。		特徴のあるリズムに合わせて動くことができる。		
			特徴のあるリズムの繰り返しに合わせて動くことで、リズムの特徴に気付くことができる。		
	曲名や動きとの関わりについて気付くこと。		「ぞうさん」などの名詞からゆっくり動くことなどを想起できる。		
			「マーチ」などの特徴的なリズムからリズムミカルに跳ねるなどの動きを想起できる。		
	曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	示範を見て模倣したり、拍や特徴的なリズムを意識したりして手足や身体全体を動かすこと。	示範をまねして動くことができる。		
			拍や特徴的なリズムを感じ取った動きで表現することができる。		
			示範のまねをせずに、主体的に表現することができる。		
	音や音楽を聴いて、手足や身体全体を自然に動かすこと。		音や音楽を聴いて感じた思いに合った手足の動きで、表現することができる。		
			音や音楽を聴いて感じた思いに合った身体全体を使った動きで、表現することができる。		
	教師や友達と一緒に体を動かす技能		教師や友達と手をつないで、小さな動きや大きな動きをすることができる。		
音楽に合わせて、教師や友達と手をつないで、小さな動きから徐々に大きくするなどすることができる。					
段階	段階の目標		調査項目	判定	
小3 段階	曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	曲のリズム、速度、旋律について気付くこと。	動物名がついている曲名と、それを表すリズムや速度、旋律のつながりに気付くことができる。		
			曲名、拍やリズムを表す言葉やかけ声、歌詞の一部について気付くこと。	歌詞の一部に出てくる動きを表す言葉と、それを表すリズムや速度、旋律のつながりに気付くことができる。	
			示範を見たり、拍やリズム、旋律を意識したりして身体表現をする技能	示範の表現を見ながら、拍やリズム、旋律を感じ取ることができる。	
				示範の表現を見ながら、自分が意識した拍やリズム、旋律を表現することができる。	
			音や音楽を聴いて、様々な体の動きで表現する技能	音や音楽を聴いて、拍は足踏みで表現し、旋律は腕の動きで表現することができる。	
			教師や友達と一緒に体を使って表現する技能	旋律やリズム、和音の響きなどといった音の厚みを友達と一緒に感じながら表現することができる。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等 調査項目	判定
小1 段階	音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。	音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。	教師と一緒に音や音楽を聴いて体を動かしている。	
			音源を見つけて音源に近づいている。	
小2 段階	音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。	身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムの特徴を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。	簡単なリズムを感じたり、体を動かしたりしている。	
			教師の支援を受けて体を動かす中で、自発的に動きを生み出そうとしている。	
小3 段階	音楽表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音や音楽を味わって聴くことができるようにする。	身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムや旋律の特徴、歌詞を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。	簡単なリズムだけでなく、旋律の特徴や歌詞を感じ取り、体を動かそうとしている。	
			簡単なリズムに合わせて体を動かす中で、部分的に表現しようとしている。	

活動例
・動物のまねを基にした身体表現による音の大小 「まあるいたまご」 「ぞうさん」 「おつかいありさん」
・「むらまつり」「八木節」「フルールポンチ音頭」などお祭りの曲を使用して曲調の変化に合わせて、気に入った楽器やスカーフを使用して自由に身体を動かす。 ・お祭りの曲に合わせて、大太鼓を叩く。 教師の真似、リズム遊び、自分で考えたリズムを叩くなど活動を発展させていく。

A表現(身体表現)

段階	段階の目標	知識及び技能		判定
		指導事項	調査項目	
中1 段階	曲名や曲の雰囲気と音楽の構造などの関係について理解すること。また、音楽表現をするために必要な歌唱、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。	曲の雰囲気と音楽の構造との関係について理解すること。	音楽の構造(旋律と和声など)に気が付いて自分なりに表現する中で、それらの関係に気が付くことができる。	
		曲名や歌詞と体の動きとの関係について理解すること。	曲名(「Oのボルカ」)や歌詞の節(「燈たなびく」など)から想起する動きを体の動きで表現できることに気が付くことができる。	
		示範を見て体を動かしたり、曲の速度やリズム、曲の雰囲気に合わせて音楽づくり、身体表現の技能を身に付けること。	示範を参考にしたり、速度やリズム、曲の雰囲気など、感じ取ったものをより複合的に身体表現することができる。	
		音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせて身体表現をする技能を身に付けること。	リズムの特徴や曲の雰囲気から動きを組み合わせて表現することができる。	
		友達と動きを合わせて表現する技能を身に付けること。	動きを合わせるために感じたことを話し合ったり、動きのアイデアを出し合ったりして動きに表すことができる。	
中2 段階	曲名や曲と音楽の構造などとの関係について理解すること。また、新しい音楽表現をするために必要な歌唱、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。	曲想と音楽の構造との関係について理解すること。	ゆったりした感じから、弾んだ感じに変わったことなどについて、旋律と和声のよさ、音楽の構造との関係といったことを理解することができる。	
		曲名や歌詞と体の動きとの関係について理解すること。	曲名や歌詞などから想起する情景と動きとの関係が分かる。	
		示範を見て表現したり、曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現したりする技能を身に付けること。	示範を参考にしたり、速度やリズム、曲の雰囲気など、感じ取ったものをより複合的に身体表現することができる。	
		音や音楽を聴いて、様々な動きを組み合わせてまとまりのある表現をする技能を身に付けること。	曲の特徴に合わせて動きを変えながら、音楽に合わせて動きを繰り返し使ったり、似た動きを使ったりすることができる。	
		友達と動きを相対して、合わせて表現する技能を身に付けること。	動きを合わせるために感じたことを話し合うことや、出し合ったアイデアを、まとめて動きに表すことができる。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等		判定
			調査項目		
中1 段階	音楽表現を考えて、自分なりの思いや意図をもつこと。また、音や音楽を味わいながら、リズムの特徴や曲の雰囲気を感じ取り、体を動かすことについて思いや意図をもつこと。	身体表現についての知識や技能を得た動きで表現している。	音色やリズムなどを体全体で感じ取り、受け止めた思いを自発的に出てくる動きで表現している。		
			身体表現についての知識や技能を得た動きで表現している。		
中2 段階	音楽表現を考えて、自分なりの思いや意図をもつこと。また、音や音楽を味わいながら、リズムの特徴や曲の雰囲気を感じ取り、体を動かすことについて思いや意図をもつこと。	身体表現についての知識や技能を得た動きで表現している。	感じ取った特徴的なリズムや曲の雰囲気について、自分の思いや意図を表すような動きに近づけている。		
			身体表現についての知識や技能を得た動きで表現している。		

活動例
・旋律と和声のよさ、音楽の構造に気が付いて、自分から気づいた思いや動きで表現しようとする。例として「ダンス」「ボルカ」のような曲名や「燈たなびく」のような歌詞から想起する動きを体の動きで表現できることに気が付くこと。
・「ゆったりした感じから弾んだ感じに変わったことなどについて、旋律と和声のよさ、音楽の構造との関係といったことを理解すること。」 ・「ダンス」「ボルカ」などの曲名や「燈たなびく」などの歌詞から想起する情景と動きとの関係といったことを理解すること。

A表現(身体表現)

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能		
			調査項目	判定	
高1段階	曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、音楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。	曲想と音楽の構造との関わり	曲想(音楽固有の雰囲気や表情、味わい)と、音楽を形づくっている要素の表れ方や関係性、音楽の構成や展開の有り様などが分かる。		
			曲想と体の動きとの関わり	曲想を生徒が自身を感じ取り、感じ取ったことと体の動き関わりについて理解することができる。	
			曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現する技能	右手で旋律の動き、左手で左足に触れる動きでリズムを表現するなど創意工夫ができる。	
			設定した条件に基づいて、様々な動きを組み合わせてまとまりのある表現をする技能	上記の動きを複数で行うことにより、統一感が感じられる動きに表すことができる	
			友達と動きを組み合わせて表現をする技能	生徒が工夫して考えた表現を組み合わせて動きに表すことができる。	
高2段階	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、音楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。	曲想と音楽の構造との関わり	曲想(音楽固有の雰囲気や表情、味わい)がどのような音楽の構造によって生み出されているかを捉えることができる。		
高2段階	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、音楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。	曲想と音楽の構造と体の動きとの関わり	曲想や音楽を形作っている要素などを生徒自身が感じ取り、感じ取ったことと体の関わりについて理解することができる。※		
			曲の速度やリズム、曲想に合わせて表現する技能	既習の技能を用いて創意工夫を生かした表現することができる。	
			設定した条件に基づいて、様々な動きを組み合わせたり、即興的に動いたりしてまとまりのある表現をする技能	創意工夫を生かした表現を複数で行うことにより、感じたままに自由に動きながら、ふさわしいと思う動きにまとめることができる。	
			友達と動きを組み合わせたり、即興的に表現したりする技能	その場で考え工夫した表現を組み合わせることができる。	

※「前半はゆったりとしていて、後半は躍動的で力強い」と感じ取り、旋律やリズムの変化に着目して手や身体全体をゆったりと滑らかな身体表現から、力強い動きで大きな動きに変化させながら身体表現をするなど。

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	
			調査項目	判定
高1段階	音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや楽しさを自分なりに見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。	身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身体表現を創意工夫すること。	音や音楽に対する自分のイメージを膨らませている。	
			音や音楽に対する他者のイメージに共感している。	
			音楽を形作っている要素の働きなどを試行錯誤している。	
			どのように身体表現するかについて思いや意図をもっている。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	
			調査項目	判定
高2段階	音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや楽しさを味わって聴くことができるようにする。	身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、身体表現を創意工夫すること。	音や音楽に対する自分のイメージを膨らませている。	
			音や音楽に対する他者のイメージに共感している。	
			音楽を形作っている要素の働きなどを試行錯誤している。	
			どのように身体表現するかについて思いや意図をもっている。	

活動例
○「この曲はリズムカルな明るい雰囲気がする」と感じ取った生徒が、リズムに着目してスキップをしながら、身体表現することなど
○「この曲の前半は、ゆったりとしていて静かな雰囲気を感じ取り、後半は躍動的で力強い雰囲気がある」と感じ取った生徒が、旋律やリズムの変化に着目して、手や身体全体をゆったりと滑らかな動きのある身体表現から、力強い動きで大きな動きに変化させながら身体表現することなど

A表現(音楽づくり)

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能 調査項目	判定
小1 段階	※「音楽遊び」 の中で扱う	表現する音や音楽に気付くこと	自分の好きな音や音楽に反応することができる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2 段階	曲名や曲想と簡単な音楽の つくりについて 気付くとともに、音楽表現を 楽しむために 必要な身体表現、 器楽、歌唱、音楽づくり の技能を身に 付けるように する。	声や身の回りの様々な音の特徴に 触れて気付くこと。	歌声や擬声語、擬態語、自然や生活の中での音、身近な楽器の音のおもしろさに気付くことができる。	
		音のつなげ方の特徴に気付く こと。	短い旋律やリズムをつくり、反復して簡単なおんがくにすることができる。	
		音を選んだりつなげたりして、表現 する技能を身に付けること。	その場で音を選んだりつなげたりして表現することができる。	
		教師や友達と一緒に簡単な音や音楽 をつくる技能を身に付けること。	教師や友達が発する音や声の特徴を注意深く聴きながら、音を簡単な音楽にすることができる。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3 段階	曲名や曲想と 音楽づくりにつ いて気付くと ともに、音楽表現 を楽しむために 必要な、身体 表現、器楽、歌 唱、音楽づくり の技能を身に 付けるように する。	声や身の回りの様々な音の特徴と 関わって気付くこと。	声や身のまわりの様々な音の特徴や面白さに気付くことができる。	
		簡単なリズム、パターンの特徴に 気付くこと。	タンウンタンウン、タンタタンウンなどの簡単なリズムの特徴に気付くことができる。	
		音を選んだりつなげたりして表現 する技能を身に付けること。	気付きや発想を生かして、その場で音を選んだりつなげたりして表現することができる。	
		教師や友達と一緒に音楽の仕組み を用いて、簡単な音楽をつくる技能 を身に付けること。	呼びかけとこたえになるようなリズムや旋律をつくり、反復させたり変化させたりすることができる。	
			擬声語や擬音語など、言葉のリズムにのせて、反復したり組み合わせたりすることができる。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等 調査項目	判定
小1 段階	※「音楽遊び」 の中で扱う	音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりに表そうとすること。	いくつかの音や音楽を聴いて、自分なりに声を出したり、楽器を鳴らすなどしている。	
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小2 段階	音楽表現を工夫することや、 表現することを通じて、音や音楽 に興味をもって 聴くことができる ようにする。	※ 音遊びを通して、音の面白さに 気付くこと	リズムを模倣したり、言葉を唱えたり、そのリズムを打ったりしている。	
		音や音楽で表現することについて 思いをもつこと	言葉の抑揚を短い旋律にして歌遊びをしている。 身の回りの音や自分の体を使って出せる音などから気に入った音を見つけて繰り返し鳴らしたり、つなげたりしている。	
※「音遊び」とは、友達と関わりながら、声や身の周りの様々な音に親しみ、その場で様々な音を選んだりつなげたりして表現すること				
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小3 段階	音楽表現に対する 思いをもつ ことや、曲や演奏 の楽しさを見 いだしながら音 楽を味わって 聴くことができ るようにする。	音遊びを通して、音の面白さに 気付いたり、音楽づくりの発想を得たり すること。	声や身の回りの様々な音を「こうしたらおもしろくなる」と考えをもって歌ったり、演奏したりしている。	
		どのように音を音楽にしていかに ついて思いをもつこと	その場で音を選んだりつなげたりして、気に入った音楽を見付けている。	

活動例
○教師といるる音や音楽を聴く。
活動例
○「やまのおんがくか」 ・楽器の選択 ・リズム打ちの練習 ・気に入ったリズムの選択 ・リズムの組み合わせ ・オリジナル絵譜づくり ・簡単な楽器作り ・手作り楽器による演奏
活動例

A表現(器楽)

段階	段階の目標	知識及び技能		
		指導事項	調査項目	判定
中1段階	曲名や曲の雰囲気と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けること。	いろいろな音の響きの特徴に気付くこと。	楽器の演奏の仕方や材質の違いによって、音の響き方や雰囲気異なることに気付くことができる。	
		リズム・パターンや短い旋律のつなげ方の特徴に気付くこと。	リズム・パターンを反復したり、短い旋律をつなげたりして、音の重なりやつながりのよさや面白さに気付くことができる。	
		設定した条件に基づいて、音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けること。	設定した音や拍子に合わせて、即興的に表現することができる。	
		音楽の仕組みを生かして、簡単な音楽を作る技能を身に付けること。	「呼びかけとこたえ」の仕組みを使い、一つの声部に他の声部が答えるように音楽をつくることができる。	
中2段階	曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表現したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けること。	いろいろな音の響きやその組み合わせの特徴について理解すること。	音の素材や楽器そのものもつ固有の響き、楽器などの材質による音の響きの違い、音を出す道具による音色の違いなどを理解することができる。	
		音の高さ、長さ、音色、重なり等の特徴を捉えて、いくつかの音の響きを合わせることができる。	音の高さ、長さ、音色、重なり等の特徴を捉えて、いくつかの音の響きを合わせることができる。	
		リズム・パターンや短い旋律のつなげ方や重ね方の特徴について理解すること。	リズム・パターンを反復させたり、呼びかけ合うようにしたり、それらを変化させたりすることができる。	
		異なるリズム・パターンや短い旋律を同時に重ねたり、時間をずらして重ねたりして、重ね方を工夫することができる。	異なるリズム・パターンや短い旋律を同時に重ねたり、時間をずらして重ねたりして、重ね方を工夫することができる。	
設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり組み合わせたりして表現する技能を身に付けること。	例えば、「ソランの3つの音を使い、一人一人が即興的に表現し、順番に旋律をつなぐ」ようなことができる。			
音楽の仕組みを生かして、音楽をつくる技能を身に付けること。	例えば、「反復と変化を使い、短いフレーズを反復させた後、変化させて、また最初の短いフレーズを反復させてつづっていく」ようなことができる。			

段階	段階の目標	思考力、判断力、表現力等			活動例
		指導事項	調査項目	判定	
中1段階	音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、音や音楽を味わいながら聴くことができるようにする。	音遊びを通して、どのように音楽をつくるのかについて発想を得ること。	「これらの音をこうしたら面白くなるかな」と自分の新しい考えをもち、音を選んだり、組み合わせたりして試行している。		〇一つの楽器でも音の高さや演奏の仕方を考えることによって響き方が異なったり、楽器の材質によって音の特徴や雰囲気が異なったりするといったことに気付けるような活動。
		音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。	「呼びかけとこたえ」のような音楽の仕組みを手がかりとして、いくつかの音を関連づけてまとまりのあるリズムや旋律にしている。		
中2段階	音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。	即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。	友達が見付けた音を使って模倣したり、変化させたりしている。		〇木、金属、皮などの材質の物から生まれるそれぞれの音の響きを基に、「同じ材質の物から生ずる音の響きだけそろえて表現すると面白くなる」といった考えを実際に音で示しながら、即興的に表現する。
		自分で工夫した音を使って友達と会話をしている。			
		即興的に表現する中で、思いついた考えを実際に音に出して確かめている。			
		音を音楽へと構成することについて思いや意図をもつこと。			

A表現(創作)

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定	
高1段階	曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。	いろいろな音の響きやそれらの組み合わせの特徴について理解すること。	音の素材や楽器そのものがもつ固有の音の響き、木、金属、皮など、それぞれの材質がもつ音の響き、音を出す道具によって変わる響きなどについて、音を出したり、聴いたりして確かめることができる。	とらえたいいくつかの音の長さ、音色、重なりを合わせることができる。		
				音や個々の音が組み合わせられたフレーズをつなぐことができる。		
				音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴について理解すること。	リズム・パターンを反復させたり、呼びかけ合うようにしたり、同時に重ねたり、時間をずらして重ねたりすることができる。	
				創意工夫を生かした表現で旋律や音楽を作るために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けること。	自分の思いや意図を、課題に合わせて旋律や音で表現するために、適切に音を選んだり、組み合わせたりすることができる。	
段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定	
高2段階	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。	音のつながり方の特徴について理解すること。	音の高さに着目して順次進行・跳躍進行・上行・下行をとらえたり、どのような音符の長さで次の音につながっているかをとらえたりすることができる。	上記の旋律・リズムによる曲の雰囲気の違い(滑らかさ・勢い・動き・落ち着き)などを感じ取ることができる。		
				声や楽器のほか、自然界や日常生活の中で聴ける様々な音の音色の特徴をとらえることができる。		
				音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対象などの構成上の特徴について理解すること。	動機、旋律、リズム・パターンを、反復、変化、対照することができる。	
				創意工夫を生かした表現で旋律や音楽を作るために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組み合わせなどの技能を身に付けること。	自分の思いや意図を、課題に合わせて旋律や音楽で表現するために、適切に音を選んだり、組み合わせたりすることができる。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
高1段階	音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを自分なりに見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。	創作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。	曲に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりしている。	音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤して、表したい創作表現について考えている。	
				どのように創作表現するかについて考え、思いや意図をもっている。	
				思いや意図を伝え合うことと実際に音で試すことを繰り返しながら、表現を工夫し、思いや意図を膨らませている。	

活動例
○「○○の音(楽器)を用いて、○○のような旋律をつくろう」というような場合である。したがって、指導のねらいに応じて適切な課題や条件を設定すること

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
高2段階	音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	創作表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。	曲に対する自己のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりしている。	音楽を形づくっている要素の働きなどを試行錯誤して、表したい創作表現について考えている。	
				どのように創作表現するかについて考え、思いや意図をもっている。	
				創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、さらに思いや意図を深めたり、新たな思いをもったりしている。	

活動例
○音の高さに着目すると、順次進行であるか跳躍進行であるか、上行しているか下行しているかといったことなどが考えられる。また、音の長さに着目すると、八分音符の長さで次の音につながっているのか、二分音符や全音符の長さで次の音につながっているのかといったこと ○木、金属、皮などの素材の違いにより、そこから生まれる楽器の音の特徴が異なってくる。

B鑑賞

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能(技能)	調査項目	判定
小1 段階	音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心を向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。	聴こえてくる音や音楽に気付くこと。		音や音楽を聴き、反応することができる。	
				音を聴いて音源を探したり、触れたりしようとしてすることができる。	
段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能(技能)	調査項目	判定
小2 段階	曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	身近な人の演奏に触れて、好きな音色や楽器の音を見付けること。		身近な人の演奏や身近な生活音を聴いて、好みの音色を見付けることができる。	
				身近な人の演奏や身近な生活音を聴いて、好みのフレーズを見付けることができる。	
段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能(技能)	調査項目	判定
小3 段階	曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴に気付くこと。		曲想の特徴に気付くことができる。	
				楽器の音色の特徴に気付くことができる。	
				曲のリズムの特徴に気付くことができる。	
				曲の速度の変化や特徴に気付くことができる。	
				曲の旋律の特徴に気付くことができる。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
小1 段階	音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。	音や音楽遊びについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、音や音楽を聴いて、自分なりの楽しさを見付けようとする。		音や音楽を聴き、自分なりに楽しんでいる。	
段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
小2 段階	音楽表現を工夫することや、表現することを通して、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。	鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、身近な人の演奏を見たり、体の動きで表したりしながら聴くこと。		好きな音楽の特徴を体を揺らして表現している。	
				好きな音楽の特徴を声を出して表している。	
				好きな音楽の特徴を手や体を使って表している。	
段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
小3 段階	音楽表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見聞かしながら音や音楽を味わって聴くことができるようにする。	鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだして聴くこと。		リズムの面白さに気付き、自然に体を動かしている。	
				リズムの面白さに気付き、自分の好きな部分を口ずさんでいる。	
				リズムの面白さに気付き、踊ったり、動きを止めて聴いたりしている。	
				速度の面白さに気付き、自然に体を動かしている。	
				速度の面白さに気付き、自分の好きな部分を口ずさんでいる。	
速度の面白さに気付き、踊ったり、動きを止めて聴いたりしている。					

活動例
<ul style="list-style-type: none"> 音楽鑑賞教室 分かりやすい音や音楽を聴く活動 音源を見やすい位置に置く
活動例
<ul style="list-style-type: none"> 音楽鑑賞教室 身近な人の歌や演奏を聴く活動
活動例
<ul style="list-style-type: none"> 音楽鑑賞教室 曲や旋律に合わせて手拍子をする活動

目標

期	段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定	期	段階	段階の目標	指導事項	思考力・判断力・表現力等	調査項目	判定	活動例
第1段階	1	音楽や曲の構造や音楽の要素などについて理解を深め、音楽表現を学ぶために必要な知識、音楽表現の技術身に付くようにする。		曲想やその変化を感じ取ることができる。			音楽表現を学ぶ上で書きたい曲や楽器について、楽器や演奏のよさを伝えたいこと。	2	2	音楽や曲の構造や音楽の要素などについて理解を深め、音楽表現を学ぶために必要な知識、音楽表現の技術身に付くようにする。		曲の一部分について気付いたこと（リズムや速度、拍数の特徴）を関連付けて伝える。		音楽表現教室
				曲想やその変化とリズムを関連付けることができる。		曲の一部分の曲想について気付いたこと（リズムや速度、拍数の特徴）を関連付けて伝える。								
				曲想やその変化と速度を関連付けることができる。		楽器についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさを伝えたいこと。								
				曲想やその変化と拍数を関連付けることができる。		音楽がどのように伝えられているかを伝えたい。								
第2段階	2	音楽や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解を深め、音楽表現を学ぶために必要な知識、音楽表現の技術身に付くようにする。		曲の雰囲気や表情、味わいやその変化を感じ取ることができる。			音楽表現を学ぶ上で書きたい曲や楽器について、楽器や演奏のよさを伝えたいこと。	3	3	音楽や曲の構造や音楽の要素などについて理解を深め、音楽表現を学ぶために必要な知識、音楽表現の技術身に付くようにする。		曲全体の雰囲気や味わいを、曲の構造と関係付けて伝えたい。		音楽表現教室
				音楽表現を聴いて、音楽の構造とその変化について感じ取ることができる。		曲全体の雰囲気や味わいについて気付いたこと、曲の構造と関係付けて伝えたい。								
				曲の雰囲気や表情、味わいやその変化を、音楽の構造と関連付けて伝えたい。		楽器についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさを伝えたいこと、音楽表現を味わって伝えたい。								
				曲の雰囲気や表情、味わいやその変化を、音楽の構造と関連付けて伝えたい。		自分が気に入った曲などを紹介して伝えたい。								

B鑑賞

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能	調査項目	判定
高1段階	曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。		曲全体の雰囲気や表情、味わいと移りゆく変化について、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連との関係で捉えることができる。		
高2段階	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。	音楽の特徴とその背景となる文化や歴史などとの関わりについて理解すること。	曲想やその変化と、複数の音楽要素と関連をとらえることができる。	曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。	
				日本固有の音楽やその音楽的特徴と地域性との関わりについて理解することができる。	
				世界の音楽やその音楽的特徴と地域性との関わりについて理解することができる。	
				日本の古典音楽の音楽的特徴とその歴史のかかわりについて理解することができる。	
				西洋音楽の音楽的特徴と歴史的背景について理解することができる。	

段階	段階の目標	指導事項	思考力、判断力、表現力等	調査項目	判定
高1段階	音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを自分なりに見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。	鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くこと。		曲や演奏のよさについて考えをもち、聴き深めている。	
				曲の部分的なよさなどを見いだしだけでなく、音楽の流れを感じながら聴いている。	

活動例
<p>○音楽鑑賞教室</p> <p>○「ゆったりとしておだやかな感じから、動きのあるにぎやかな感じに変わったのは、低音の楽器が単独でテンポもゆっくり演奏されていた音楽から、高音の楽器が複数同時にテンポも速く演奏される音楽になったから」といったことが考えられる。</p>

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
高2段階	音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。	鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏のよさなどについて自分なりに考え、曲全体を味わって聴くこと。	既習の音楽要素や音楽の背景・歴史などを踏まえ、曲全体を音楽要素と関わらせて自分なりに解釈しながら聴いている。	

活動例
<p>・音楽鑑賞教室</p>

共通事項

段階	段階の目標	指導事項	知識及び技能(知識)	調査項目	判定
小学部・中学部段階			(音色について)身の回りの音に気付いて聴くことができる。		
			(音色について)声や楽器の音色に気付いて聴くことができる。		
			(音色について)歌いや楽器の演奏の仕方の違いに気付いて、聴くことができる。		
			(リズム)音符や休符を組み合わせた様々なリズム・パターンに気付いて聴くことができる。		
			(リズム)言葉や身の回りの音に含まれているリズム・パターンに気付いて聴くことができる。		
			(速度)速い曲、遅い曲などの曲全体の速度に気付いて聴くことができる。		
			(速度)「速くなる、遅くなる」などの速度の変化に気付いて聴くことができる。		
			(旋律)上行、下行、山型、谷型、一つの音に留まるなどの音の動き方に気付いて聴くことができる。		
			(旋律)順次進行、躍進進行などの音の連なり方に気付いて聴くことができる。		
			(強弱)音色など関わって、力強い音、優しい音などの音の質感によって強弱が表されることに気付いて聴くことができる。		
			(強弱)音の強弱を表す「強く、少し強く、少し弱く、弱く」に気付いて聴くことができる。		
			(強弱)強弱の変化を表す「だんだん強く、だんだん弱く」などに気付いて聴くことができる。		
			(音の重なり)複数の高さの音が同時に鳴ることで生まれる響きなどに気付いて聴くことができる。		
			(音の重なり)複数の旋律やリズムに含まれる音が同時に鳴ることで生まれる響きなどに気付いて聴くことができる。		
			(和音の響き)長調や短調のⅠ、Ⅳ、Ⅴ及びⅦを中心とした和音などに気付いて聴くことができる。		
			(音階)長調の音階(長音階)、短調の音階(短音階)に気付いて聴くことができる。		
			(音階)我が国の音楽に用いられる音階などに気付いて聴くことができる。		
			(調)長調と短調の違いに気付いて聴くことができる。		
			(調)調性にとらわれない音楽などに気付いて聴くことができる。		
			(拍)「拍のある音楽」と「拍のない音楽」に気付いて聴くことができる。		
			(フレーズ)歌詞の切れ目やブレス(息継ぎ)によって区切られるまことに気付いて聴くことができる。		
			(フレーズ)数個の音やリズムからなる小さなまことに気付いて聴くことができる。		
			(フレーズ)いくつかつながった大きなまことに気付いて聴くことができる。		
			(反復)リズムや旋律などが連続して繰り返される反復に気付いて聴くことができる。		
			(反復)A-B-A-C-Aの「A」などに見られる合間において繰り返される反復に気付いて聴くことができる。		
			(反復)A-B-Aの三部形式の「A」などに見られる再現による反復に気付いて聴くことができる。		
		(変化)リズムや旋律などが反復した後に異なるものが続く変化に気付いて聴くことができる。			
		(変化)リズムや旋律などが少しずつ変わる変化に気付いて聴くことができる。			
		(呼びかけとこたえ)ある呼びかけに対して模倣でこたえるものに気付いて聴くことができる。			
		(呼びかけとこたえ)ある呼びかけに対して性格の異なった音やフレーズまたは旋律でこたえるものに気付いて聴くことができる。			
		(呼びかけとこたえ)短く合いの手を入れるものに気付いて聴くことができる。			
		(呼びかけとこたえ)一人が呼びかけてそれに大勢がこたえるものに気付いて聴くことができる。			
		(音楽の縦と横との関係)輪唱(カノン)のように同じ旋律がずれて重なったに気付いて聴くことができる。			
		(音楽の縦と横との関係)二つの異なる旋律が同時に重なったものに気付いて聴くことができる。			
		(音楽の縦と横との関係)はじめは一つの旋律だったものが、途中から二つの旋律に分かれて重なったりするものに気付いて聴くことができる。			

絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語について、音楽における動きと関わらせて、その意味に触れること。

段階	段階の目標	指導事項	思考力・判断力・表現力	調査項目	判定	活動例
小学部・中学部段階			(音色について)身の回りの音に気付いて表現することができる。			
			(音色について)声や楽器の音色に気付いて表現することができる。			
			(音色について)歌いや楽器の演奏の仕方の違いに気付いて、表現することができる。			
			(リズム)音符や休符を組み合わせた様々なリズム・パターンに気付いて表現することができる。			
			(リズム)言葉や身の回りの音に含まれているリズム・パターンに気付いて表現することができる。			
			(速度)速い曲、遅い曲などの曲全体の速度に気付いて表現することができる。			
			(速度)「速くなる、遅くなる」などの速度の変化に気付いて表現することができる。			
			(旋律)上行、下行、山型、谷型、一つの音に留まるなどの音の動き方に気付いて表現することができる。			
			(旋律)順次進行、躍進進行などの音の連なり方に気付いて表現することができる。			
			(強弱)音色など関わって、力強い音、優しい音などの音の質感によって強弱が表されることに気付いて表現することができる。			
			(強弱)音の強弱を表す「強く、少し強く、少し弱く、弱く」に気付いて表現することができる。			
			(強弱)強弱の変化を表す「だんだん強く、だんだん弱く」などに気付いて表現することができる。			
			(音の重なり)複数の高さの音が同時に鳴ることで生まれる響きなどに気付いて表現することができる。			
			(音の重なり)複数の旋律やリズムに含まれる音が同時に鳴ることで生まれる響きなどに気付いて表現することができる。			
			(和音の響き)長調や短調のⅠ、Ⅳ、Ⅴ及びⅦを中心とした和音などに気付いて表現することができる。			
			(音階)長調の音階(長音階)、短調の音階(短音階)に気付いて表現することができる。			
			(音階)我が国の音楽に用いられる音階などに気付いて表現することができる。			
			(調)長調と短調の違いに気付いて表現することができる。			
			(調)調性にとらわれない音楽などに気付いて表現することができる。			
			(拍)音楽に合わせて手拍子をしたり歩いたりすることができる。			
			(フレーズ)歌詞の切れ目やブレス(息継ぎ)によって区切られるまことに気付いて表現することができる。			
			(フレーズ)数個の音やリズムからなる小さなまことに気付いて表現することができる。			
			(フレーズ)いくつかつながった大きなまことに気付いて表現することができる。			
			(反復)リズムや旋律などが連続して繰り返される反復に気付いて表現することができる。			
			(反復)A-B-A-C-Aの「A」などに見られる合間において繰り返される反復に気付いて表現することができる。			
			(反復)A-B-Aの三部形式の「A」などに見られる再現による反復に気付いて表現することができる。			
		(変化)リズムや旋律などが反復した後に異なるものが続く変化に気付いて表現することができる。				
		(変化)リズムや旋律などが少しずつ変わる変化に気付いて表現することができる。				
		(呼びかけとこたえ)ある呼びかけに対して模倣でこたえるものに気付いて表現することができる。				
		(呼びかけとこたえ)ある呼びかけに対して性格の異なった音やフレーズまたは旋律でこたえるものに気付いて表現することができる。				
		(呼びかけとこたえ)短く合いの手を入れるものに気付いて表現することができる。				
		(呼びかけとこたえ)一人が呼びかけてそれに大勢がこたえるものに気付いて表現することができる。				
		(音楽の縦と横との関係)輪唱(カノン)のように同じ旋律がずれて重なったに気付いて表現することができる。				
		(音楽の縦と横との関係)二つの異なる旋律が同時に重なったものに気付いて表現することができる。				
		(音楽の縦と横との関係)はじめは一つの旋律だったものが、途中から二つの旋律に分かれて重なったりするものに気付いて表現することができる。				

音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの動きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じたこととの間わりについて考えること。



共通事項

段階	知識及び技能(知識)			段階	思考力・判断力・表現力			活動例
	段階の目標	指導事項	調査項目		段階の目標	指導事項	調査項目	
高等 部 段階		音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。	(音色について)声や楽器の音色、自然音や環境音、曲種に応じた発声や楽器の奏法による様々な音色に気付いて聴くことができる。	高等 部 段階	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。	(音色について)声や楽器の音色、自然音や環境音、曲種に応じた発声や楽器の奏法による様々な音色に気付いて聴くことができる。	〇「速度」であれば、速くなったのか、それとも遅くなったのかを聞き分けたり、「これは速度が速い」、「これは速度が遅い」と意識したりするなど、速度の特徴を客観的に聞き取るだけでなく、「たんだん忙しい感じになってきたのに、急にのんびりとした感じになったのは、速度がだんだん速くなった後に、急に速度が遅くなったから」と捉えるなど、速度の変化とその働きが生み出す特質や雰囲気との関係を考えること	
			(音色について)の組合せや変化などが生み出す響きに気付いて聴くことができる。			(音色について)の組合せや変化などが生み出す響きに気付いて聴くことができる。		
			(リズム)拍や拍子、リズム・パターンとその反復や変化に気付いて聴くことができる。			(リズム)拍や拍子、リズム・パターンとその反復や変化に気付いて聴くことができる。		
			(リズム)我が国の伝統音楽に見られる様々なリズム、間などについて気付いて聴くことができる。			(リズム)我が国の伝統音楽に見られる様々なリズム、間などについて気付いて聴くことができる。		
			(速度)速度の保持や変化に気付いて聴くことができる。			(速度)ふさわしい速度の設定に気付いて表現することができる。		
			(音階)我が国や諸外国の音楽に使われている様々な音階に気付いて聴くことができる。			(音階)我が国や諸外国の音楽に使われている様々な音階に気付いて表現することができる。		
			(テクスチャ)和音や和声、多声的な音楽、我が国の伝統音楽に見られる音や旋律の重なり方に気付いて聴くことができる。			(テクスチャ)和音や和声、多声的な音楽、我が国の伝統音楽に見られる音や旋律の重なり方に気付いて表現することができる。		
			(強弱)ふさわしい音量の設定、音量の保持や変化、強弱の対比に気付いて聴くことができる。			(強弱)ふさわしい音量の設定、音量の保持や変化、強弱の対比に気付いて表現することができる。		
			(強弱)音量は小さいけれども強さを感じさせる音に気付いて聴くことができる。			(強弱)音量は小さいけれども強さを感じさせる音に気付いて表現することができる。		
			(形式)二部形式、三部形式、ソナタ形式、我が国や諸外国の音楽に見られる様々な楽曲形式に気付いて聴くことができる。			(形式)二部形式、三部形式、ソナタ形式、我が国や諸外国の音楽に見られる様々な楽曲形式に気付いて表現することができる。		
			(構成)反復、変化、対照などの音楽の構成する原理に気付いて聴くことができる。			(構成)反復、変化、対照などの音楽の構成する原理に気付いて表現することができる。		

共通事項(リズムに関すること)

知識及び技能(知識)				思考力、判断力、表現力等				活動例		
段階	段階の目標	指導事項	調査項目	段階	段階の目標	指導事項	調査項目			
中学部 段階	曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感想したこととの関わりについて考えること。	八分音符、四分音符、二分音符から構成されたリズムの重なりを感じ取る	小1段階				表現及び鑑賞の活動における ・「形はどれにしようか」「色はどれにしようか」などの言葉がけを教師がしながら形や色に着目して活動する。 ・大きな紙に線を書く学習活動。		
			まとまりのあるリズム(フレーズを含む)を感じ取る							
			反復や変化のあるリズムを感じ取る							
			曲の中にあるリズムの違いとその感じの違いを感じ取る(メヌエット等)							表現及び鑑賞の活動における ・児童の好きなもの、見たことあるもの、心地よいものなどに触れる。
			日本固有音楽のリズムを感じ取る(反復など)			小2段階				
			八分の六拍子のなかでのリズムを感じ取る							
			付点や十六分音符を含むリズムを感じ取る							
			楽譜からリズムを読んで演奏する							
			洋楽音楽のリズムの特徴を感じ取る(シンコペーション、裏拍、休符の効果的な活用)							
			反復、縮小、拡大、カン、間いと符え、変化、リズムを重ねる等、工夫してリズムアンサンブルをつくる				小3段階			表現と鑑賞の活動における ・線の具を混ぜる活動 ・水彩線の具に入れる水の量を自分で決める活動 ・板材を組み合わせて形を作る活動 ・たかさんの材料から発想する活動
			合奏におけるリズムパートの役割をとらえる							
			日本民謡のリズムの特徴を感じ取る							
日本音楽に合うリズムを工夫する(お囃子のリズム)										

共通事項(強弱に関すること)

FAC MIS	知識及び技能(知識)			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小学 部 段階	曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じたこととの関わりについて考えること。	真似で強弱をつけてうたう	
			歌詞や動きに合わせた強弱を感じ取る(だんだん強く、だんだん弱く)	
			歌詞に合わせて強弱を工夫して歌う	
			クラシック音楽を聴いて、強弱の変化を感じ取る(ラデツキー行進曲等)	
			問いと答え(やまびこ)の強弱を工夫する	
			強い音の出る楽器の音を感じ取る	
			強拍と弱拍を感じ取る	
			音の重なりによる強さの変化を感じ取る、工夫する	
			曲想と強弱の関係を感じ取る(人形の夢と目覚め 等)	
			弱く演奏される曲の特徴を感じ取る	
曲の盛り上がりを感じ取る				
ピアノとフォルテを言葉で表現する「強く」「大きく」、「弱く」「小さく」				

段階	思考力、判断力、表現力等			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
小1 段階				
小2 段階				
小3 段階				

活動例
表現及び鑑賞の活動における ・「形はどれにしようか」「色はどれにしようか」などの言葉がけを教師がしながら形や色に着目して活動する。 ・大きな紙に線を書く学習活動。
表現及び鑑賞の活動における ・児童の好きなもの、見たことあるもの、心地よいものなどに触れる。
表現と鑑賞の活動における ・絵の具を混ぜる活動 ・水彩絵の具に入れる水の量を自分で決める活動 ・板材を組み合わせて形を作る活動 ・たくさんの材料から発想する活動